

(様式1)

## 令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立( 中瀬小 ) 学校運営協議会長

### <本年度の目標>

- ・「多様な実践」を生み出していく。
- ・ボランティア活動が今後も継続できるような仕組みづくりを行う。
- ・立ち上げから3年目となり区切りの年として、学校のニーズにより多くの保護者や地域の力で支えることで、活動の広がりをもたせていく。(地域の人材、グループ、企業等への広がり)

### <評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・キャリア教育推進のための具体的な取り組みとしての教科担任制やクラブ活動について、詳細な説明を聞き、それについて熟議できた。
- ・グランドデザイン等の資料に基づき、学校から学校運営基本方針について説明を受け熟議した。キャリア教育の推進に向け、教科担任制やICT活用など、目指す学校の姿を浮き彫りにすることができた。

### <評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・教育活動の充実をめざした支援活動の輪が広がりつつあると感じた。特にコーディネーターを中心として建設的な意見を出し合うことができ、学習活動のニーズを理解し、学校支援活動の推進につなげることができた。
- ・子供たちの「自ら学ぶ」という目標において、授業やクラブ活動ではどのような支援が必要かを話し合い、学期毎に支援活動を行うことができた。また、活動に参加してくださった保護者や地域の方にアンケート調査を行い、そこから見えた改善点や反省点を協議することができた。
- ・学校や家庭だけで進めていくことが難しい支援活動について、地域へ依頼していくことの必要性を確認することができた。

### <評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・協議結果をまとめた会議録や、写真掲載した「CS便り」での支援活動の様子紹介など、地域回覧・さくら連絡網・HPを利用して発信した。
- ・さくら連絡網でのボランティア募集の発信は、今、学校が何を必要としているのか、家庭・地域へ広く情報発信することができた。
- ・「CS便り」の自治会での回覧や、HPに会議録などを掲載しているが、家庭や地域でどれだけの人に閲覧されているかを顧みるとまだ課題がある。

### <評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・保護者や地域の人材・地域の特色を生かしたボランティア活動について熟議する。
- ・防災という観点からも、学校と地域と保護者のつながりについて考え、子供たちの防災に対する知識を高められるような支援活動について熟議する。
- ・本年度の取組を継続しつつ、学校が必要としている支援をより具体的にし、より多くの保護者や地域の力で学校を支える体制づくりを進めていきたい。